



2008～09 年度
国際ロータリー会長

李 東 建

Weekly Report Niigata



2008～09 年度
新潟ロータリー会長

柴 田 史 郎

新潟 RC 3月第 3 例会 (2009.3.17) No.2792

(1) ロータリーソング「我等の生業」斉唱

(2) 柴田 史郎会長挨拶

子どもとメディアとの関係は深刻です。メディアといっても、テレビ、ビデオ、ゲーム、ケータイ、PCの話です。メディアそのものの重要性は勿論ありますが、上手に使えば有効ではあっても、メディア漬けになってメディアに使われるような状態になると大変です。

さて、メディア漬けに関連すると考えられる負の特性は、1) 五感のうち触覚、嗅覚、味覚を使わないため、バランスの取れた感覚の発達がさまたげられる。2) 立体視覚の発達を妨げる。3) 言葉（音声言語でのコミュニケーション）の獲得が遅れ、しかも不十分となる。4) 体を動かさないため、筋力をはじめ身体運動機能の発達が抑えられる。5) 不規則な生活になりがちであり、自律神経の障害を来しやすい。6) 感情や欲望をコントロールしたり、人間らしい心、高度の思考、未来の予測機能などを司る高度脳機能の発達の障害、などがあげられています。

これらの負の特性は、イ) 自己中心的で、思いやりにない、ロ) 感情の変化を自己制御できない、ハ) 現実と非現実の区別がつかなくなる。ニ) 責任を全て他者に求める、などのゆがんだ人格形成形となってあらわれてくると考えられます。世の中を騒がす事件に関係する子供達は、私たちの常識を超えた言動を披露します。そこには人格形成のゆがみが垣間見えます。

環境もよくありません。すでにメディア漬けの世界で育ってきた世代が、親になっています。授乳しながらテレビやビデオ鑑賞をする親、ケータイでメールをしながら授乳や散歩をする親、自分達の時間を増やすため子どもにテレビ、ビデオ、ゲームなどを与える両親、6ヶ月くらいの乳児期からメディアを積極的に見せようとする親、などが現実なのです。

対策としては、言語形成期である2歳まではテレビやビデオをみせない。それ以後には見るとしても時間の制限や見る対象を絞る。ノー・テレビ、ノー・ケータイの日や週を作る、子ども部屋にはメディアを置かない、親と子でメディアを上手に使う方法・ルールを話し合う。などを試みる必要があります。

それによって時間的に余裕が出来れば、屋外での活動、読書、家族との会話、しつけの実践が可能になるでしょう。また、学童期には、体験学習を増やしたり、ボランティア活動などを通して社会の有様を知る機会を増やすようにすれば、責任と義務の考え方や自由度の理解などが多少とも出来るようになり、また自分の将来についての展望もいくらか開けてくるのではないのでしょうか。また、実際そういう報告も多いのです。

(3) 大前 淳二君退会挨拶

(4) 卓話

「新潟における広域連携の取り組みについて」

上信越トライネット推進協議会

会長代行 長 谷 川 克 弥 氏

3月24日の例会予定

会員スピーチ「知っとこ! LNG」

日本海 LNG(株)代表取締役 菊池武人君

新潟ロータリークラブ ホームページアドレス

<http://www.niigatarc.jp/>